

平成29年5月11日
西部農林振興センター県央事務所農業普及部大田支所

標 題	産地の将来を担う児童へ、ぶどう教室の開催！ ～産地ビジョンの実現をめざして！～
------------	--

(ダイジェスト)

去る5月10日、鳥井小学校児童を対象に総合学習の時間を活用し、ぶどうについての学習やぶどう作業体験を行いました。作業体験では、大田市ぶどう生産組合若手生産者指導の下、児童3, 4年生が小学校に植栽されているデラウェアのジベレリン処理を体験しました。児童は熱心に作業を行い、終始積極的に質問するなど、ぶどう栽培や産地について理解・関心を深めました。

大田市ぶどう生産組合では、若手生産者5名が中心となり、平成28年1月に産地の目標と行動計画を定めた産地ビジョンを策定しました。今回、ビジョンの中に位置づけられている「次世代につなぐ夢ある産地」の実現を目指し、鳥井小学校児童に向けてのぶどう教室をスタートしました。

5月10日、鳥井小学校児童3, 4年生14名を対象に、総合学習の時間を活用したぶどうの学習と作業体験を行いました。

学習では、普及部から鳥井町のぶどう栽培面積や、栽培品種、ぶどうについての基礎知識を伝えました。児童は熱心に耳を傾け、「ぶどうが喜ぶことは？」や「ぶどう栽培で大変なことは？」など積極的に質問があり、鳥井町のぶどう生産について理解を深めました。

作業体験では、約17年前から小学校に植栽されているデラウェアのジベレリン1回目処理を体験しました。大田市ぶどう生産組合若手生産者指導の下、児童は時折笑顔も見せながら、真剣な表情で作業を行いました。児童は終始積極的に質問するなど、ぶどうの栽培方法について理解・関心を深めました。今後、袋かけや収穫体験を予定しています。

今後普及部としては、こうしたぶどう教室の取組みが、担い手の育成、確保につながるよう支援を行っていきます。



熱心に耳を傾ける児童



農家の指導を受けジベレリン処理を行う児童